

証券コード6859

エスペック株式会社
2022年度(2023年3月期)
決算説明

2023年5月24日

代表取締役 執行役員社長 荒田 知

ESPEC CORP.

エスペック株式会社 代表取締役 執行役員社長の
荒田でございます。
どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、2022年度決算についてご説明いたします。

決算総括

部品調達難、部材価格高騰は継続したが、エレクトロニクス・自動車市場が好調維持
受注高・売上高は過去最高を更新、利益面も前期比で大幅に増加

	前期比	予想比(2022年10月修正)
■受注高	○ すべての事業が増加、特に装置事業(主に環境試験器)が大幅増	○ 装置事業(主に環境試験器)およびサービス事業が上回る
■売上高	○ すべての事業が増加、特に装置事業(環境試験器)が大幅増	○ 装置事業(環境試験器)およびサービス事業が上回る
■営業利益	○ 部材価格高騰・販管費増加の影響を受けたが増収により大幅増	○ 売上高の上振れと販管費減少により上回る
■経常利益 親会社株主に帰属する当期純利益	○ 営業利益の増加により大幅増	○ 営業利益の上振れにより上回る
■ 1株当たり配当金は、期初計画のとおり、中間24円、期末45円、年間69円を予定 (75周年記念配当 中間2円、期末2円、年間4円を含む)		

ESPEC CORP.

1

2022年度の決算総括といたしましては、部品調達難、部材価格高騰は継続しましたが、エレクトロニクス・自動車市場の投資が好調を維持し、受注高・売上高は過去最高を更新、利益面も大幅に増加しました。

受注高は、すべての事業が増加し、特に装置事業の環境試験器が大幅に増加いたしました。エリアでは日本、北米、欧州がけん引し、韓国や台湾も増加しました。

生産面においては、部品調達難が継続しましたが、戦略的在庫の積み増し、代替調達、設計変更などあらゆる対策を講じ、生産量を確保し、売上高も大きく拡大することができました。利益面については、部材価格や電気代の高騰、販管費増加の影響を受けましたが、主に増収により、大幅に増益となりました。

10月に修正発表をした業績予想に対しては、売上高が予想を上回ったこと、また、販管費を想定よりも低く抑えることができたため、利益予想を上回ることができました。

配当につきましては、期初の計画通り、期末配当金は45円、年間では69円を予定しております。なお、ここには75周年の記念配当として年間4円を含んでおります。

損益の状況

	2021年度 実績	2022年度 修正予想(10月)	2022年度 実績	前期比	予想比
受注高	51,303	59,000	59,521	+16.0%	+0.9%
売上高	41,852	52,000	52,892	+26.4%	+1.7%
売上原価 (原価率)	27,849 (66.5%)	34,200 (65.8%)	34,935 (66.0%)	+25.4% 0.5pt改善	+2.2% 0.2pt悪化
売上総利益	14,003	17,800	17,957	+28.2%	+0.9%
販管費	12,034	13,800	13,590	+12.9%	△1.5%
営業利益	1,968	4,000	4,366	+121.8%	+9.2%
経常利益	2,322	4,350	4,664	+100.9%	+7.2%
親会社株主に帰属 する当期純利益	1,905	2,900	3,330	+74.8%	+14.9%
ROE (自己資本当期純利益率)	4.2%	期初予想 8.0%	7.2%	+3.0pt	△0.8pt

2021年7月よりエスベックサーマルテックシステム株式会社を連結の範囲に含めています。

ESPEC CORP.

2

こちらが損益の状況です。

前期比では受注高はプラス16%、売上高はプラス26%となりました。
原価率は0.5ポイント改善しましたが、販管費は約15億円増加しました。

営業利益としましてはプラス121%、
当期純利益はプラス74%と大幅に増加いたしました。

予想に対しては、受注高・売上高ともに、やや上回りました。
原価率については0.2pt下振れましたが、販管費が2億円ほど
少なくなり、営業利益は3.6億円上回りました。

なお、部材価格高騰に対応するため、エスベック単体の製品価格を
改定いたしましたが、受注残高が積み上がっていたため、
2022年度業績への貢献は軽微となりました。

セグメント別の損益の状況

		(百万円)				
		2021年度 実績	2022年度 修正予想(10月)	2022年度 実績	前期比	予想比
装置事業	受注高	43,535	51,000	51,446	+18.2%	+0.9%
	売上高	34,518	44,400	45,031	+30.5%	+1.4%
	営業利益	1,370	3,760	3,919	+186.0%	+4.3%
サービス事業	受注高	6,771	6,720	6,963	+2.8%	+3.6%
	売上高	6,407	6,470	6,788	+5.9%	+4.9%
	営業利益	618	230	428	△30.8%	+86.1%
その他事業	受注高	1,265	1,580	1,469	+16.1%	△7.0%
	売上高	1,188	1,430	1,404	+18.2%	△1.8%
	営業利益	△23	10	16	-	+65.4%
連結消去	受注高	△269	△300	△359	-	-
	売上高	△261	△300	△330	-	-
	営業利益	2	0	1	-	-
計	受注高	51,303	59,000	59,521	+16.0%	+0.9%
	売上高	41,852	52,000	52,892	+26.4%	+1.7%
	営業利益	1,968	4,000	4,366	+121.8%	+9.2%

2021年7月よりエスベックサーマルテックシステム株式会社を連結の範囲に含めています。

セグメント別の実績については、ご覧のとおりです。

2022年度実績・受注高について

■ 受注高は、エレクトロニクスおよび自動車市場が想定以上に好調に推移
2期連続で過去最高を更新



※2018年度は海外子会社の決算期間が15カ月の変則決算、(参考)は12カ月であった場合の参考値

ESPEC CORP.

4

2022年度業績について、もう少し詳しく説明いたします。

受注高については、エレクトロニクスおよび自動車市場が想定以上に好調に推移し、2期連続で過去最高を更新いたしました。

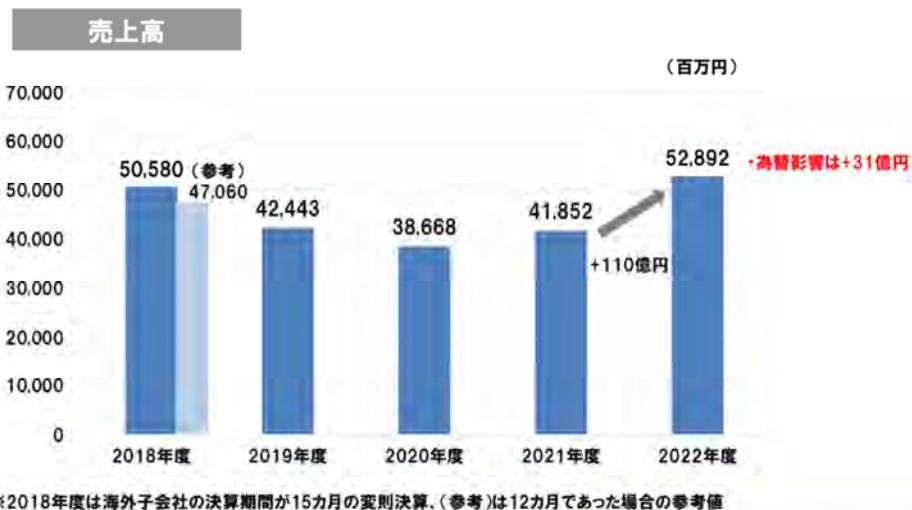
前期比では82億円増加いたしましたが、この受注高には、特殊な要因も含まれております。一つは、製品納期の長期化に伴う、2023年度受注予定の前倒し分です。主に上期に発生し、約20億円あったと見ております。

もう一つは、為替変動による影響であり、約32億円のプラス効果がありました。

ただし、これらを除いても543億円と、過去最高となっております。

2022年度実績・売上高について

■ 売上高は、部品調達難および1Qには上海ロックダウンの影響を受けたがあらゆる対策を講じ生産量を確保、大幅に増加し過去最高を更新



ESPEC CORP.

5

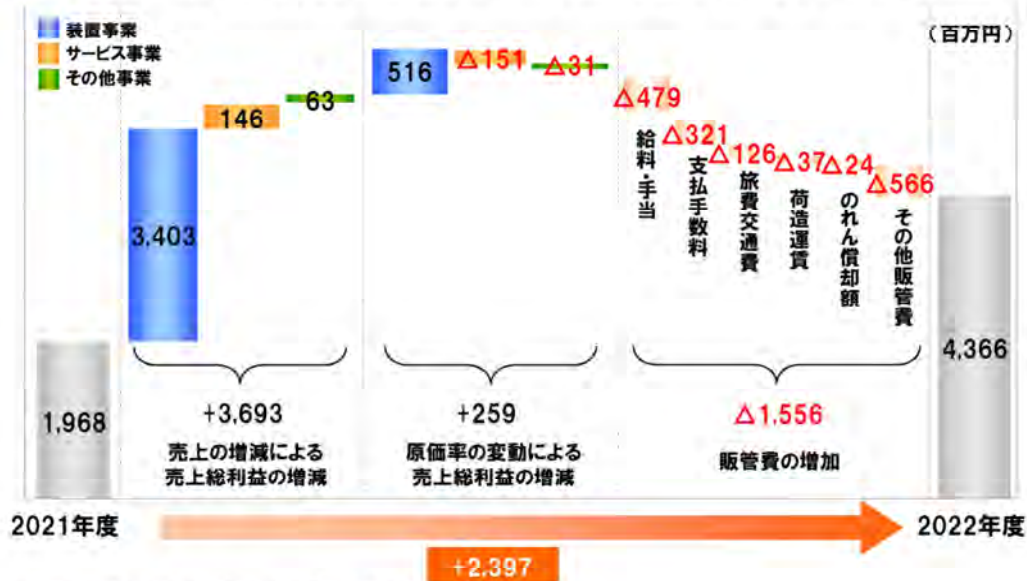
次に売上高についてです。

売上高につきましては、部品調達難の継続や、第1四半期には上海ロックダウンの影響を受けましたが、生産量の確保に努め、大幅に増加することができました。こちら、過去最高を更新しております。

なお、為替変動によるプラス影響は、約31億円でした。

営業利益の増減要因分析(前期比)

■部材価格高騰・販管費増加の影響を受けたが、主に装置事業の増収により大幅増益



ESPEC CORP.

6

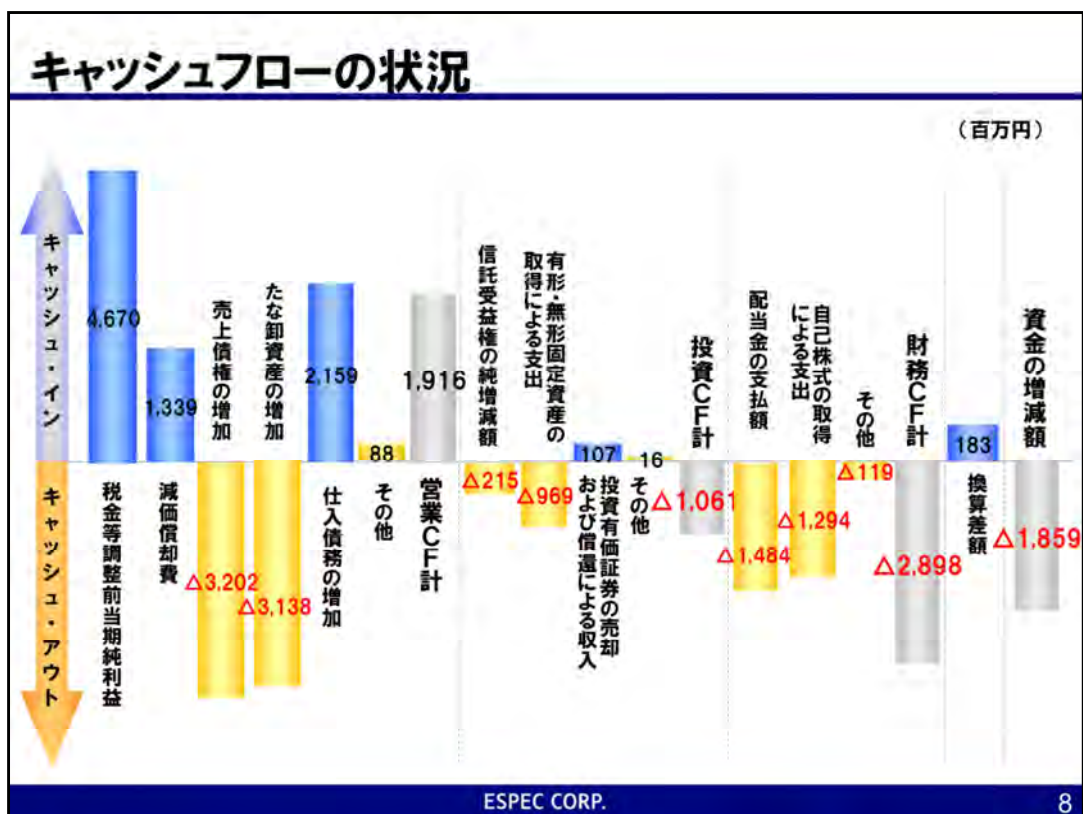
こちらは営業利益の増減要因分析です。

部材価格や電気代の高騰、販管費増加の影響は受けたものの、主に装置事業の増収により、大幅増益となりました。

資産・負債の状況



次に資産・負債の状況ですが、
 受注拡大に伴う売掛金など売上債権の増加や、
 部品不足による仕掛品の増加、
 部品確保による原材料の増加などにより棚卸資産が増え、
 資産が約52億円増加しております。



キャッシュフローの状況については、
 受注残高の増加に伴う棚卸資産の増加や、
 自己株式の取得による支出などにより、
 資金が約18億円減少しました。

装置事業セグメント

	2021年度 実績	2022年度 修正予想(10月)	2022年度 実績	前期比	予想比
受注高	43,535	51,000	51,446	+18.2%	+0.9%
売上高	34,518	44,400	45,031	+30.5%	+1.4%
営業利益 〔利益率(%)〕	1,370 4.0%	3,760 8.5%	3,919 8.7%	+186.0%	+4.3%

環境試験器

- 国内では、部品調達難の影響を受けたが、汎用性の高い標準製品、カスタム製品ともに受注高・売上高が前期比で増加
- 海外では、受注が好調に推移し、売上高は中国、北米、欧州、東南アジア、韓国において前期比で増加

エナジーデバイス装置

- 自動車の電動化に向けた投資拡大により、主に国内において充放電試験用チャンバーが好調に推移し、受注高は前期比で大幅に増加
- 売上高は、部品調達難の影響を受け前期並み

半導体関連装置

- 主力のバーンインチャンバーで顧客の計画遅れの影響を受けたが、受注高・売上高ともに前期並み

ESPEC CORP.

9

つぎに、セグメント別の状況についてご説明いたします。

装置事業セグメントにつきましては、製品納期の長期化が継続しておりますが、前期比で受注高・売上高ともに増加し、営業利益も大幅に増加いたしました。

予想に対しても、ご覧の通り上回っております。

製品群ごとでは、環境試験器は、受注高・売上高ともに増加しました。

エナジーデバイス装置は、主に国内において充放電試験用チャンバーが好調に推移し、受注高が大幅に増加しましたが、売上高は前期並みとなりました。

半導体関連装置は、受注高・売上高ともに前期並みとなりました。

サービス事業セグメント

(百万円)

	2021年度 実績	2022年度 修正予想(10月)	2022年度 実績	前期比	予想比
受注高	6,771	6,720	6,963	+2.8%	+3.6%
売上高	6,407	6,470	6,788	+5.9%	+4.9%
営業利益 [利益率(%)]	618 9.7%	230 3.6%	428 6.3%	△30.8%	+86.1%

アフターサービス・エンジニアリング

- 保守契約など予防保全サービスが堅調に推移するとともに、修理サービスで調達困難部品の入手が進み、受注高・売上高ともに前期比で増加

受託試験・レンタル

- 車載用バッテリーを中心に受託試験が堅調に推移し、受注高・売上高ともに前期並み

次にサービス事業ですが、
受注高・売上高ともに前期比で増加いたしました。

営業利益につきましては、受託試験において電気代高騰の影響を受けるとともに、人員増や、新しいアフターサービスの運用費などにより販管費も増加し、減益となっております。

予想に対しては、アフターサービス・エンジニアリング、
受託試験・レンタルともに売上高が上振れたこと、
また、販管費が想定を下回ったことから、
営業利益は予想比で増加いたしました。

サービス群ごとの状況はご覧のとおりです。

その他事業セグメント

(百万円)

	2021年度 実績	2022年度 修正予想(10月)	2022年度 実績	前期比	予想比
受注高	1,265	1,580	1,469	+16.1	△7.0%
売上高	1,188	1,430	1,404	+18.2	△1.8%
営業利益 〔利益率(%)〕	△23 △2.0%	10 0.7%	16 1.2%	-	+65.4%

環境保全・植物育成装置

- 受注高・売上高ともに前期比で増加
- 森づくりや水辺づくりは低調に推移したが、植物研究用装置や植物工場は前期を上回る

環境保全事業や植物育成装置を手掛けるその他事業につきましては、受注高・売上高ともに前期比で増加し、営業黒字となりました。

市場別売上構成比

■先端技術分野であるIoT関連市場(通信端末・基地局・サーバ)
および次世代自動車関連市場(電動化・自動化)を中心に拡大



ESPEC CORP.

12

こちらは、エスペック単体の市場別の売上構成比です。

当社事業の中心的な市場であるブルーの電子部品、電子機器市場は5G・IoTなど先端分野を中心に好調に推移し、売上高は増加しましたが比率は1ポイント低下いたしました。

グリーンの自動車市場は、自動運転・電動化を中心に拡大し、比率は2ポイント上昇しました。

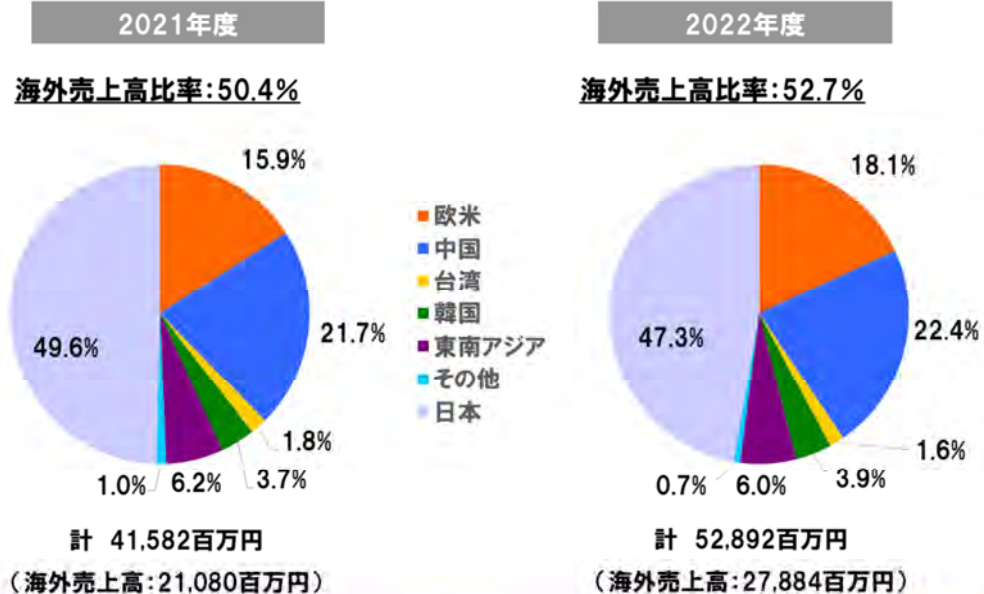
グレーの半導体市場は売上高は前年並みとなりましたが、比率は3ポイント低下いたしました。

オレンジの「研究機関」は、民間や国公立の研究機関で、例年6～8%を占めております。

一番下の「その他市場」には、化学、建築材料、食品、化粧品などさまざまな業種が含まれております。
この「その他市場」については、売上高は増加しましたが、比率は前期と同じとなりました。

地域別売上構成比

■2期連続で海外売上高比率は50%超。エリアでは中国、欧米の比率が上昇



ESPEC CORP.

13

次に地域別の売上高について、ご説明いたします。

為替の影響もあり、海外売上高比率は52.7%となり
2期連続で、50%を超えました。

地域別では、オレンジの欧米の比率が上昇しました。
北米は自動車や電子部品・電子機器、欧州は自動車が好調でした。
また、ブルーの中国が自動車や電子部品・電子機器を中心に
好調に推移し比率が上昇しました。

国内についても、売上高は大幅に増加しておりますが
比率としては低下いたしました。

2023年度計画について

- 不透明な経営環境が継続するが、受注高は、先端技術分野を中心に引き続き高水準を維持すると予想
- 一方、部品調達はまだまだ不安定であり、下期以降の正常化を予想
- 部材価格が高騰するなか、さらなる製品価格の改定を実施し「製品納期正常化」および「収益力の向上」に全力を挙げる

次に、2023年度計画についてご説明いたします。

2023年度の方針としては、不透明な経営環境が継続しておりますが受注高については、先端技術分野を中心に高水準を維持すると予想しております。

2022年度は収益確保を優先したため、設備投資や研究開発の計画に遅れが生じました。

2023年度は、成長に向けた投資・戦略を着実に実行し、好調な需要を獲得してまいります。

部品調達については、いまだ不安定であり、正常化は下期以降と見ております。

「製品納期の正常化と受注残高の早期消化」に全力を挙げるとともに、部材価格が高騰するなか、さらなる製品価格の改定を実施し「収益力の向上」に努めてまいります。

2023年度 業績予想

	2022年度	2023年度 予想			
	通期実績	上期	下期	通期	前期比
受注高	59,521	26,500	27,500	54,000	△9.3%
売上高	52,892	26,000	30,000	56,000	+5.9%
売上総利益 〔利益率(%)〕	17,957 34.0%	8,750 33.7%	10,250 34.2%	19,000 33.9%	+5.8% △0.1pt
販管費 〔販管費率(%)〕	13,590 25.7%	6,900 26.5%	7,100 23.7%	14,000 25.0%	+3.0% △0.7pt
営業利益 〔利益率(%)〕	4,366 8.3%	1,850 7.1%	3,150 10.5%	5,000 8.9%	+14.5% +0.6pt
経常利益 〔利益率(%)〕	4,664 8.8%	1,950 7.5%	3,150 10.5%	5,100 9.1%	+9.3% +0.3pt
親会社株主に帰属する 当期純利益 〔利益率(%)〕	3,330 6.3%	1,300 5.0%	2,350 7.8%	3,650 6.5%	+9.6% +0.2pt
設備投資額	1,311	1,310	1,790	3,100	+136.3%
減価償却費	1,328	710	770	1,480	+11.4%
研究開発費	1,041	820	670	1,490	+43.0%
1株当たり当期純利益(円)	150.34	59.54	107.64	167.18	+11.2%

※ROE(自己資本利益率) 2023年度目標 7.5%(前期比+0.3pt)

ESPEC CORP.

15

2023年度の業績予想としては、受注高は540億円と見ております。

昨年度の製品納期長期化に伴う前倒し受注や為替影響は剥落しますが、高水準を維持すると予想しております。

売上高は560億円、営業利益は50億円、当期純利益は36.5億円と増収増益を見込んでおります。

受注残高が約270億円ありますが、調達・生産の正常化には時間がかかると見ており、また、部材価格や電気代のさらなる高騰を見込んでおります。

なお、研究開発費を増やす計画であり、販管費は140億円と前期よりも増加する見込みです。

設備投資、研究開発費の計画はご覧のとおりです。

主な内容については、後ほどご説明いたします。

2023年度想定為替レート

■想定為替レート

	2021年度	2022年度		2023年度
	通期実績	上期実績	通期実績	通期想定
USD(円)	112.40	134.04	135.51	130

※参考：2023年度為替感応度(対ドル1円円安)

売上高 185百万円増加

営業利益 35百万円増加

2023年度の想定為替レートは130円です。

為替感応度は、1円円安で、売上高はプラス1億8千5百万円、営業利益はプラス3千5百万円と見ております。

環境認識

経営環境は不透明ではあるが、IoTや次世代自動車など先端技術分野を中心に需要は継続すると予想

装置事業	環境試験器	日本：EV・自動運転関連の投資が引き続き好調、IoT関連の投資は一服感があるが堅調に推移 中国：EV、IoT関連を中心に投資は継続 ASEAN：半導体関連の投資は不透明であり前期を下回ると予想 北米：景気減速を懸念するが、EV、IoT関連の投資は継続 欧州：EV、IoT関連の投資は継続
	エネルギーデバイス装置	国内外で二次電池向け投資が拡大すると予想
	半導体関連装置	下期以降投資が回復すると予想
サービス事業	アフター・エンジン 受託試験・レンタル	アフター・エンジン：前期と同水準になると予想 受託試験：二次電池を中心に先端技術分野の需要が好調
その他事業	環境保全 植物育成装置	環境保全(森づくりや水辺づくり)を中心に回復を見込む

ESPEC CORP.

17

こちらは現在のセグメントごとの環境認識です。

経営環境は不透明ではありますが、IoTや次世代自動車など先端技術分野を中心に需要は継続すると見ております。

環境試験器につきましては、日本では、EV・自動運転関連の投資が引き続き好調に推移すると見ております。

また、IoT関連の投資は一服感があるものの堅調に推移すると予想しております。

中国については、EV、IoT関連を中心に投資は継続すると見ております。ASEANについては、半導体関連の投資は不透明であり前期を下回ると予想しております。北米については景気減速を懸念していますが、EV、IoT関連の投資は継続すると見ております。欧州についてもEV、IoT関連の投資は継続すると見ております。

エネルギーデバイス装置は、国内外で二次電池向け投資が拡大すると予想しております。

半導体関連装置につきましては、下期以降の回復を見込んでおります。

受託試験につきましては、二次電池を中心に先端技術分野の需要が好調に推移すると見ております。

2023年度の主な取り組み

装置事業

- ・収益力の向上、製品納期正常化および受注残高の早期解消
- ・グローバルに拡大するバッテリー市場への対応強化

サービス事業

アフターサービス:「スーパーサポートプラン」による予防保全サービスの拡大
受託試験 :自動車を中心とする先端技術分野向け試験サービスの拡充

エリア戦略

日本:EV・自動化、IoT分野のニーズに適合した製品投入による販売拡大、買替需要の喚起
北米:インフレ抑制法(IRA)による自動車市場の需要拡大への対応
中国:グループ連携によるEV、IoT市場への販売拡大
欧州:製品ラインアップ拡充による自動車およびIoT市場の開拓
韓国:グローバル大企業への販売拡大

2023年度の主な取り組みといたしましては、装置事業では、部材の確保および生産の前倒しにより受注残高を早期に売上高につなげることで、製品納期の正常化を進め生産効率を改善してまいります。また、部材価格や電気代、人件費の高騰などに対応するため、製品価格の再値上げを行い、収益を確保してまいります。

加えて、グローバルに拡大するバッテリー市場への対応を強化いたします。具体的には、日本および中国、欧州、北米において、バッテリー向け評価試験および検査装置のラインアップ拡充により、販売拡大を目指してまいります。

サービス事業のアフターサービスでは、新しいサービス「スーパーサポートプラン」により予防保全サービスの拡大を図ってまいります。受託試験では、自動車を中心とする先端技術分野向けに試験サービスを拡充してまいります。

エリア戦略といたしましては、日本ではEVや自動化、IoT分野のニーズに適合した製品投入による販売拡大および買替需要の喚起に注力いたします。北米については、インフレ抑制法により拡大する自動車市場の需要に対応してまいります。中国においては、グループ連携によりEV、IoT市場への販売拡大を図ってまいります。欧州に対しては、製品ラインアップ拡充を進めてまいります。韓国では、グローバル大企業をターゲットに販売活動を強化いたします。

セグメント別の業績予想

		(百万円)				
		2022年度	2023年度予想			
		通期実績	上期	下期	通期	前期比
装置事業	受注高	51,446	22,550	22,950	45,500	△11.6%
	売上高	45,031	22,450	25,250	47,700	+5.9%
	営業利益	3,919	1,870	2,800	4,670	+19.1%
サービス事業	受注高	6,963	3,350	3,650	7,000	+0.5%
	売上高	6,788	3,150	3,750	6,900	+1.6%
	営業利益	428	30	270	300	△29.9%
その他事業	受注高	1,469	750	1,050	1,800	+22.5%
	売上高	1,404	550	1,150	1,700	+21.0%
	営業利益	16	△50	80	30	+81.3%
連結消去	受注高	△359	△150	△150	△300	-
	売上高	△330	△150	△150	△300	-
	営業利益	1	0	0	0	-
計	受注高	59,521	26,500	27,500	54,000	△9.3%
	売上高	52,892	26,000	30,000	56,000	+5.9%
	営業利益	4,366	1,850	3,150	5,000	+14.5%

ESPEC CORP.

19

こちらはセグメント別の業績予想です。

装置事業につきましては、前倒し受注などが剥落するため受注高は減少すると見ておりますが、増収・増益を予想しております。

サービス事業につきましては、受注高・売上高は前期を上回ると見ておりますが、営業利益につきましては、売上拡大に向けた人員増や電気代、部品代の高騰などにより減少する見込みです。

しかしながら、サービス事業におきましても、「収益力の向上」が課題と認識しております。

この計画を上回れるように、利益改善に向けた対策にすでに着手しておりサービス価格の改定など手を打ってまいります。

その他事業につきましては、受注高・売上高の回復を見込んでおります。

2023年度ESGの主な取り組み

■E(環境)

- ・第8次環境中期計画(2022～2025年度)の推進
- ・地球温暖化対策:低GWP冷媒への置き換え
製造など事業活動におけるCO₂排出量削減
- ・生物多様性保全活動:エスペックミツクの事業による貢献
「エスペック50年の森」運営による保全活動の推進

■S(社会)

- ・人的資本の強化:管理職のマネジメント力強化、人事評価制度・教育制度、
1on1の実施、次世代幹部育成
- ・ダイバーシティの推進:女性管理職の育成、シニア社員・外国人の活躍推進

■G(ガバナンス)

- ・グループガバナンスの強化および内部統制システムの整備・強化

ESGの取り組みといたしましては、
Eにあたる環境については、第8次環境中期計画を推進して
まいります。

Sにあたる社会については、人的資本の強化として、引き続き
管理職のマネジメント力の強化や、人事評価制度・教育制度の
充実などに取り組んでまいります。

Gにあたるガバナンスでは、グループガバナンスの強化および
内部統制システムの整備・強化に取り組んでまいります。

2023年度の投資計画

戦略投資	16億円	研究開発費	14.9億円
通常投資	15億円		
設備投資 合計	31億円		

主な投資内容

- ・受託試験所の増設
- ・生産設備の更新 など

主な開発内容

- ・先端技術分野向け製品開発
- ・海外市場向け大型製品の開発 など

投資計画につきましては、
設備投資として31億円を計画しております。

主な内容としましては、受託試験所の増設、
また、生産設備の更新や一部自動化による
生産能力の拡充・効率化を予定しております。

研究開発費につきましては、14.9億円を計画しております。
先端技術分野の需要にお応えする製品ラインアップを
拡充するとともに、海外市場向けの大型製品の開発に
取り組んでまいります。

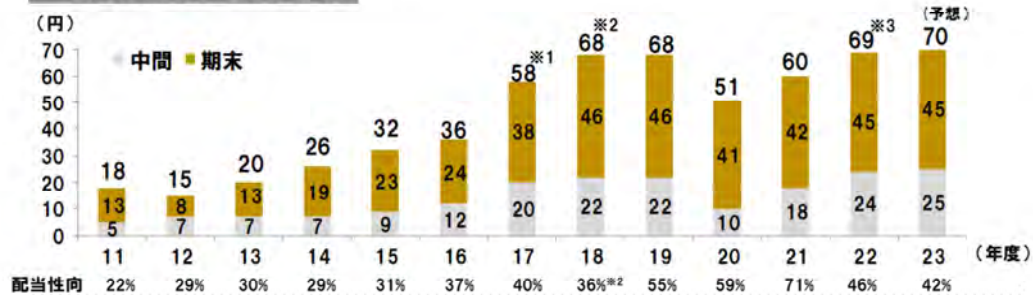
2023年度 配当予想

利益配分に関する基本方針

配当については継続性と連結配当性向を勘案して決定することを基本としています

- ・配当性向30%に加え、予定必要資金の超過金額の1/3を目途に配当として上乗せする
- ・安定配当として年20円の配当金を利益水準に関わらず維持するが、2期連続で最終赤字の場合は見直しを行う
- ・必要な内部留保の水準を考慮しつつ、自己株式取得を機動的に実施する

一株当たり配当金と配当性向



※1.2017年度は創業70周年記念配当2円(中間1円、期末1円)を含む

※2.2018年度は海外連結会社の決算期が15ヵ月間の変則決算 12ヵ月とした場合の配当性向は39%(参考値)

※3.2022年度は創業75周年記念配当4円(中間2円、期末2円)を含む

こちらは配当予想です。

昨年度は75周年の記念配当4円を含め69円としておりました。

2023年度は、中間25円、期末45円の年間70円を予定しております。

TOPICS 1

【国内初】車載用バッテリーパック・モジュール不具合解析サービス

- ・2022年11月、バッテリーパック・モジュールの不具合解析サービスを開始
- ・パック・モジュールを解体したうえで電氣的・視覚的に診断し、不具合の部位を特定
- ・公正な第三者機関としてサービスを提供し、車載用バッテリーの性能・安全確保に貢献



セル解体用グローブボックス

5G通信機器の温度特性試験に対応 電波暗箱型恒温器をラインアップ拡充

- ・5G対応の無線送受信モジュールや通信端末、基地局の通信性能や安全性を確認する電波暗箱型恒温器を新たに4器種開発
- ・シールド機能(電波を遮蔽)、電波暗箱機能(槽内での電波反射を防ぐ)を備え、-40℃～+100℃の温度環境下での無線試験が可能



電波暗箱型低温恒温器

TOPICSとしては、2022年11月、
宇都宮テクノコンプレックスのバッテリー安全認証センターにて
車載用バッテリーパック・モジュールの不具合解析サービスを
開始しました。

また、5G通信機器の温度特性試験に対応した電波暗箱型恒温器の
ラインアップを拡充しました。

恒温槽に、シールド機能や電波暗箱機能を業界で初めて付加し、
幅広い温度環境下で、通信性能や安全性を確認する
「電波特性評価」を行うことができます。

TOPICS 2

兵庫県立大学と「SDGs推進」に関する協定を締結

- ・2022年8月、兵庫県立大学とSDGs推進を目的とした協定を締結
- ・生物多様性保全、教育・人材育成、環境・エネルギーなどの分野において両者が持つ知見や技術を活かして連携



締結式
兵庫県立大学 学長 太田勲樹(右)
エスベック 代表取締役会長 石田雅昭(左)

生物多様性保全活動 「エスベック50年の森」植樹祭

- ・兵庫県三田市にて林野庁「法人の森林」制度を活用した森づくり「エスベック50年の森」を開始
- ・2022年11月、第1回植樹祭を開催
炭素固定・生物多様性機能をふまえた苗木を選定
社員など約200名が参加し約4,000本を植樹



第1回植樹祭
3.6haの土地に2年間で12,000本を植樹予定

2022年8月には、兵庫県立大学とSDGs推進を目的とした協定を締結しました。生物多様性保全、教育・人材育成、環境・エネルギーなどの分野において、連携・協力してまいります。

また、兵庫県三田市にて林野庁の「法人の森林」制度を活用した「エスベック50年の森」プロジェクトをスタートしました。

これは、創業75周年記念事業として行うもので、

昨年11月に、第1回目の植樹祭を開催しました。

当社社員など200名が参加して、約4,000本を植樹しました。

苗木は、炭素固定機能や生物多様性機能を踏まえ選定いたしました。

森に育てることで、CO2の固定や洪水防止・水質浄化など、環境への貢献が期待できると見ております。

社外からの評価

■2023年

- 3月 ・ CDP「サプライヤーエンゲージメント評価」
最高評価の「サプライヤー・エンゲージメント・リーダー」に初選定
- 2月 ・ 東洋経済新報社「2023年版CSR企業ランキング」372位



■2022年

- 12月 ・ CDP気候変動レポート2022において3年連続「Bスコア」
- ・ 日興アイ・アール「2022年度全上場企業ホームページ充実度ランキング」2年連続最優秀サイト
- ・ ブロードバンドセキュリティ「Gomez IRサイトランキング2022」銅賞（業種別24位）
- 11月 ・ 日本経済新聞社「第4回日経SDGs経営調査」4つ星
- ・ 日本経済新聞社「第6回日経スマートワーク経営調査」3.5星
- 10月 ・ 日刊工業新聞社（経産省後援）「第18回企業力ランキング」155位
- 8月 ・ ブロードバンドセキュリティ「Gomez ESGサイトランキング2022」優秀企業に初選定
- 7月 ・ 東洋経済新報社「2022年版SDGs企業ランキング」334位
- 4月 ・ ESG指数「FTSE Blossom Japan Sector Relative Index」構成銘柄に初選定



FTSE Blossom
Japan Sector
Relative Index

最後に社外からの評価ですが、
日本経済新聞社のSDGs経営調査、スマートワーク経営調査に
おいて いずれも昨年よりも高い評価をいただきました。
今後も社会課題の解決に役立つ取り組みを進めてまいります。

この資料には、当社の現在の計画や業績見通しなどが含まれております。
それら将来の計画や予想数値などは、現在入手可能な情報をもとに、
当社が計画・予測したものであります。
実際の業績などは、今後の様々な条件・要素によりこの計画などとは
異なる場合があります、この資料はその実現を確約したり、保証するものでは
ございません。

【お問い合わせ先】

エスベック株式会社

〒530-8550 大阪市北区天神橋3-5-6

TEL 06-6358-4744 FAX 06-6358-4795

e-mail ir-div@espec.jp

サステナビリティ推進部 部長 中川
IR・広報グループ 大川・貝川

以上をもちまして、私からのご説明を終わらせていただきます。
ご清聴ありがとうございました。

Quality is more than a word

ESPEC